儒者競（くらべ）

―儒者番付

〈解読文〉

【東之方】

大関　京都　仁斎伊藤源佐
関脇　江戸　徂徠荻生惣右エ門
小結　備前　蕃山熊澤五郎八
前頭　京都　東涯伊藤源蔵
前頭　江州　明霞宇野三平
前頭　信州　春台太宰弥右エ門
前頭　京都　篤所北村伊兵衛
前頭　丹波　天民並河簡亮
前頭　下野　東野安藤仁右エ門
前頭　播州　龍洲岡太仲

儒者競　行司　鵞峰林春斎
羅山林道春
鳳岡林春常

【西之方】

大関　京都　闇斎山崎嘉右エ門
関脇　姫路　活所那波道円
小結　土州　兼山野中伝右エ門
前頭　京都　順庵木下平之允
前頭　賀州　鳩巣室新助
前頭　江戸　白石新井勘解由
前頭　筑前　益軒貝原久兵衛
前頭　京都　惕斎中村七左エ門
前頭　仝　尺五松永昌三郎
前頭　対州　芳洲雨森東五郎

（以下略）

〈用語の解説〉

・江州…近江。
・播州…播磨。
・土州…土佐。
・賀州…加賀。
・対州…対馬。

〈解説〉

相撲の番付になぞらえ、人気や実力を表す一枚摺りのランキング表で見立番付という。役者・書画家・諸国物産・行楽地・料理屋などさまざまなものが作成された。「儒者競」と題したもので、儒者（儒学者）の番付である。史料は木版刷りの写しである。

「東西に儒者数多ござ候、学派あらましは左の通りにござ候」として、東西各50名の儒者が番付に名をつらねている。選者は古賀精里（１７５０～１８１７年）とみられる。

番付では林羅山・鳳岡ら林家が行司にあてられ、「勧進元・差し添え」には清原（舟橋）秀賢〈明経博士・公家〉・藤原惺窩〈朱子学派京学の祖〉・中江藤樹〈日本陽明学派の祖〉・南村梅軒〈朱子学派南学の祖〉の名がある。

日本の儒学は一つの学派ではなく、多様な学派が併存して相互に刺激しあっていた。その系譜には朱子学派（京学・南学・崎門学派）・陽明学派・古学派（古義学派・古文辞学派）がある。

なかでも朱子学は、君臣の別をわきまえ、上下の身分秩序・礼節を重んじ、封建社会の体制維持に適するとして幕府に重用された。惺窩を祖とする京学の門人には羅山のほか、松永尺五・那波活所がいる。尺五の門からは木下順庵が出て幕府に仕え、新井白石・室鳩巣らの人材を養成した。

一方、朱子学の御用学化、武教化への批判者として現れたのが中江藤樹・熊沢蕃山などの陽明学派である。さらに朱子学の解釈を離れ、孔子・孟子の原典にたちかえろうとする古学派もある。伊藤仁斎・東涯らの系譜を古義学派、荻生徂徠らを古文辞学派という。

番付をみると、最高位である東西の両大関には伊藤仁斎と山崎闇斎〈崎門学派〉が名をつらねている。闇斎は会津藩主保科正之に仕え、神儒融合の垂加神道を唱えた。

県歌「信濃の国」にも歌われる太宰春台〈古学派・飯田〉は東の前頭にその名がみえ、師の徂徠は関脇として名をつらねている。信州人では、井上金峨〈折衷学派・先祖が信濃の人〉、南宮大湫〈折衷学派〉をあげている。

【参考文献】

・林英夫ほか編『番付で読む江戸時代』柏書房
・日本史教育研究会編『story 日本の歴史　古代・中世・近世史編』山川出版社